

外為短観レビュー FX取引とスワップポイント

はじめに

FX取引の魅力のひとつに、スワップポイントの存在がある事は広く知られている。スワップポイントは通常、低金利通貨売り・高金利通貨買いのポジションを保有し続けた場合に投資家が受け取れる、いわば金利差益である(高金利通貨売り・低金利通貨買いのポジションを保有し続けた場合は支払う必要がある)。

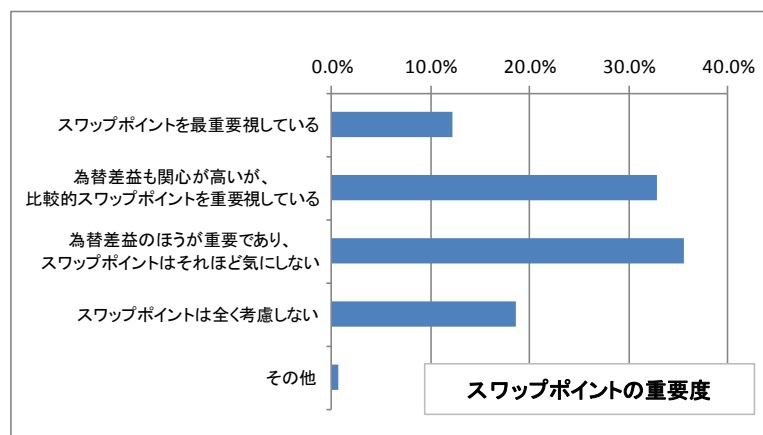
では、FX取引を行う際の投資判断にスワップポイントがどの程度影響を与えるのか、この点について8月26日にリリースした「外為短観」の特別質問項目として投資家に尋ねたところ、以下のような回答結果が得られた。

問:スワップポイントがFX投資の判断に与える影響について、次のうちあてはまるのは?

「為替差益のほうが重要であり、スワップポイン

トはそれほど気にしない(35.6%)」との回答が最も多く、僅差で「為替差益も関心が高いが、比較的スワップポイントを重要視している(32.8%)」が続き、次いで「スワップポイントは全く考慮しない(18.6%)」、「スワップポイントを最重要視している(12.3%)」、「その他(0.7%)」という順であった(図1)。また、その理由について自由記述形式で尋ねたところ、「それほど気にしない」および「全く考慮しない」と答えたスワップ軽視派からは「デイトレードのため(ポジションを翌日以降に持ち越さないため)」や「金利よりも為替変動率のほうが高い場合が多いから」などの回答が寄せられた。「スワップポイントにこだわると売買判断を誤りかねない」との見解もあった。一方、「比較的、重要視している」や「最重要視している」と答えたスワップ重視派からは、「長期保有のため」との回答が圧倒的に多かった。

図1



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2013 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

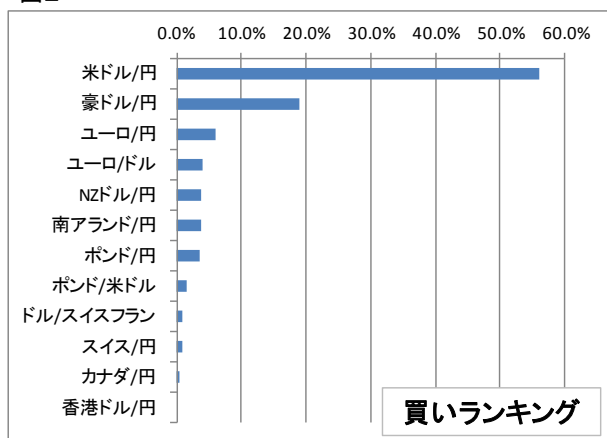
米ドル/円のスワップポイントは3円、豪ドル/円は60円

外為どっとコムの「外貨ネクスト」の場合、米ドル/円のスワップポイントは、1万通貨(1万ドル)あたり1日につき3円でしかない(9/26時点)。たしかに数日間保有する場合でも、強く気に止めるほどの金額ではないだろう。ところが、豪ドル/円のスワップポイントは1万通貨(1万豪ドル)あたり、1日につき60円である。豪ドル/円を買い持ちにした場合、最大で年率60%に近い利回りが得られる計算となり(レバレッジ25倍、最低保証金3万7000円)、決して軽視できるものではないだろう。もちろんこれは、あくまでも机上の計算であり、実際の取引を行う場合にはリスク管理の観点から決しておすすめできない事を付け加えておく。

通貨ペアによって異なる重要度合い

なお、「外為短観」では定例の質問項目として、今後「買い」で注目している通貨ペア(「買いたい

図2



通貨ペア」と解釈できる)を尋ねており、第51回外為短観においては、1位米ドル/円(56.1%)、2位豪ドル/円(19.0%)という結果であった(図2)。また、米ドル/円を「買い」で注目している向きの中ではスワップポイントについて「それほど気にしない」が最も多く、「全く考慮しない」とした割合が20%を上回った。一方、豪ドル/円を「買い」で注目とする向きの中では、スワップポイントを「比較的重要視」する割合が最も高く、「最重要視」している割合も相対的に高かった(図3、図4)。スワップポイントの存在がFX投資家の売買判断に

図3

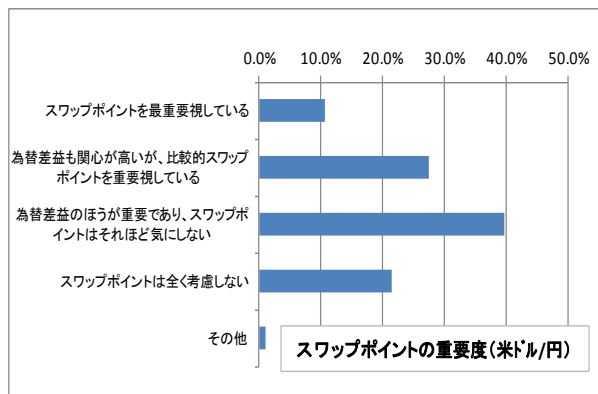
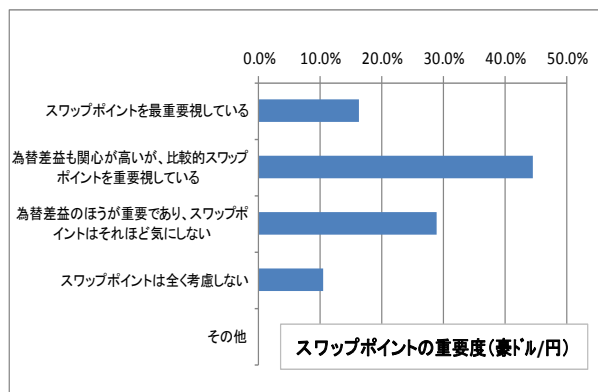


図4



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2013 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

与える影響については、投資スタンスの違いや主に取引する通貨ペアの違いによって、かなりの差があるようだ。

スワップポイントが高金利通貨売りの抑止力に

個人的な見解になるが、スワップポイントの存在は、低金利通貨買い・高金利通貨売りの取引を行う場合に、より強い影響を与えていると考えている。

例えば、円買い・豪ドル売りポジションを保有し続けた場合、為替変動がなくても、毎日1万通貨(1万豪ドル)につき60円ずつ(9/26時点)損失が増加していく事になり、万が一見通しが外れて円安・豪ドル高に振れた場合は為替差損とのダブルパンチとなってしまふ。先行きの見通しにかなりの自信がなければ、こうしたポジションを構築する事にためらいを感じる投資家が多いのではないだろうか。つまり、FX投資家にとってスワップポイントの存在が、円買い・豪ドル売りのポジションを持つ抑止力となっている可能性が高いと思われる。また、そうしたポジションを一旦構築した場合でも、同様の理由から反対売買までの時間は短くなりがちだろう。一方、円買い・米ドル売りのポジションを保有するにあたっては、1万通貨(1万米ドル)につき3円というスワップポイントの支払いが強い抑止力になるとは思えない。ポジションを保有した場合の心理的なプレッシャーも豪ドル/円ほどには強くないと推測できる。

米ドル/円も豪ドル/円も、8月前半に直近の安値を付けた後、9月中旬にかけて反発したが、この間の上昇率は米ドル/円が約5%であったのに対して、豪ドル/円は約9%と差が付いた。この例に限らず、豪ドル/円相場の反発力が他の通貨ペアに比べて強いと感じる事が多いのは、スワップポイントの存在が売り建てをためらわせ、かつ買戻しを早めさせる効果を持つ事が背景にあるのではないだろうか。世界的な規模で見ても、本邦FX投資家がかなりの売買シェアを握ると見られる豪ドル/円相場は、特にそうした影響が強いと考えられよう。

豪ドル/円には「押し目買い」が有効戦略

豪ドル/円が反発力に優れている事に着目するならば、下落局面での押し目買いが最も有効な投資戦略であると言えるだろう。問題は、どの水準を「押し目」と判断するかという点であり、これを判断するツールとしてはオシレーター系のテクニカル分析が適任だと思われる。オシレーター系の代表格であるRSIは、ある一定期間(一般的に14日間)の変動幅の中で、どれ位レートが上下しているのかを計るテクニカル分析手法であり、下部25%以下のゾーンに入ると「売られすぎ」と判断され、上部75%以上のゾーンに入ると「買われすぎ」とされる。2012年以降の豪ドル/円相場は、この「売られすぎ」のゾーンに16回突入したが、うち15回はその日の終値を3ヵ月以内に上回った。

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2013 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

